

授業概要

先行き不透明な経済社会にあって、機動性と小回り性、そして先進性と革新性を備えている中小企業に、次代の日本経済の発展を切り開く役割が期待されている。しかし、他方では多くの中小企業が時代の困難の中で疲弊するなど、次代の発展を展望できずにいる。そうした期待と困難の中で揺れ動きながら変化し続けている中小企業を様々な視点から紹介すると共に、今後の発展課題などを講義する。

授業計画

第1回	中小企業とは何か、中小企業の定義と支援の意味
第2回	社会的分業と中小企業（産業的視点から）
第3回	地域間分業と中小企業（地域的視点から）
第4回	大都市の中小企業－東京大田区の中小企業
第5回	大都市の中小企業－東大阪市の中小企業
第6回	地方圏の中小企業－事例地域の中小企業を取り上げて
第7回	日本産業と中小企業－自動車産業を取り上げて
第8回	日本産業と中小企業－電機産業を取り上げて
第9回	海外進出時代の中小企業の困難と発展可能性
第10回	国内生産における中小企業の困難と発展可能性
第11回	繊維産業における中小企業の困難と発展可能性
第12回	アパレル産業における製品企画とものづくりの主役
第13回	流通構造変化の中での製造、卸、小売の変貌
第14回	変貌する地場産業の行方
第15回	ベンチャー企業支援と中小企業政策の行方
第16回	期末試験

到達目標

中小企業の実態を学ぶことを通じて、わが国の経済社会を見通す能力を身につけることを目的とする。

履修上の注意

中小企業とは何かを理解することは、皆さんの今後の経済社会における活動において有益であると考えているので真摯に受講すること。

なお、講義内容を理解するためにも、遅刻せず受講すること。

予習・復習

中小企業についてのテレビ、新聞等の報道に関心を持つこと。また、講義した関心のある内容については、参考文献を含めた各種の文献、資料を読むこと。

評価方法

期末試験の成績（80%）、受講態度（20%）により評価する。

テキスト

特に教科書は使用しない。

参考文献として、

加藤秀雄『外需時代の日本産業と中小企業－半導体製造装置産業と工作機械産業』新評論、2015年

加藤秀雄『日本産業と中小企業－海外生産と国内生産の行方』新評論、2011年、をあげておく。